

(社) 東洋音楽学会関西支部

支部だより 第10号 (1991-11-10)

Newsletter of the Kansai chapter, Society for Research in Asiatic Music

定例研究会のご案内

(社) 東洋音楽学会関西支部 第156回定例研究会

と き 1991年12月14日(土) 14:00~17:30

ところ 相愛大学図書館視聴覚教室

〒559 大阪市住之江区南港中4-4-1 TEL06-612-5900

交 通 大阪地下鉄ニュートラム、ポートタウン東駅下車徒歩10分

14:00~15:00【研究発表】

『テーマ未定』(日本音楽学会)

発表者: 木村直弘(関西学院大学大学院)

司 会: 未定

15:00~16:00【研究発表】

『テーマ未定』(日本音楽学会+東洋音楽学会)

発表者: 長方正博(相愛大学)

司 会: 未定

—— 休憩 ——

16:00~17:30【連続講座】“研究の過去・現在・未来”

シンポジウム『韓国における研究の過去・現在・未来』(東洋音楽学会)

パネリスト: 志村哲男(大阪芸術大学)

櫻井哲男(国立民族学博物館)

司会: 小野功龍

今回は日本音楽学会関西支部例会と合同で開催する予定です

担 当 企画調整(渡辺浩子) 会場(高岡結貴)

「韓国における国楽研究の過去・現在・未来」

韓国における国楽の学問的研究は、李恵求・張師勳の両氏によって始められ、二人を中心に国立国楽院の実技指導者も含め、1959年にソウル大学校音楽大学に国楽科が創設され、演奏家や研究者の育成が始まった。現在、草創期の卒業生が各大学の国楽科や研究機関の中心人物となり、研究及び後裔の指導に当たっている。国家研究機関として、精神文化研究院や文化財管理局により各地方の民謡及び巫楽の収集・調査研究が続けられており、実技伝習の国立国楽院にも研究部門が設けられ、古楽譜の影印復刻本やその他の資料が刊行され、研究者の便宜に供している。又、韓国国楽学会から機関誌『韓国国楽研究』が発行され、各分野の論文が紹介されている。

私自身としては、今後の日本の雅楽の高麗楽との比較研究の一端緒となりはしないかと考え、韓国の国楽研究に着手した次第である。

(志村哲男)

「韓国音楽研究の過去・現在・未来」

日本人による朝鮮音楽の調査・研究は田辺尚雄をもってその嚆矢とする。その後、本格的な研究は絶えて久しく無かったが、日本の敗戦（すなわち朝鮮の解放）後、岸辺成雄を中心に韓日の音楽学者数人によって「高麗楽研究会」が定期的に持たれる。一方で、小泉文夫、草野妙子、内田るり子による現地調査が行われる。これを朝鮮・韓国音楽研究の第2期とするならば、現在は第3期である。長期間の現地留学あるいは現地調査によって、以前に比べ、より深く、より幅の広い研究が可能になった世代である。本日の2人の報告者もこの世代に属し、植村幸生ら、より若い世代がこれに続く。

私自身は朝鮮・韓国音楽というより、済州島という一地域の民俗音楽文化を対象にして調査・研究をすすめるうちに、しだいに韓国全体の音楽を含む文化一般に対して、関心の領域を広げてきた者である。

今後の朝鮮・韓国音楽研究には、歴史的研究と民族学的研究の協力・合体が望まれる。

(櫻井哲男)

フィールドワーカーの行為

楽器を構造と音の両面で支える漆

幸野智子

東アジアの伝統楽器の多くに用いられている漆は、接着および着色の機能を兼ね備えた東洋固有の塗料である。日本の楽器を見ても、多湿な気候に順応すべき耐久性と堅牢性、さらに装飾性までも実現してくれる塗料として活用されている例が多い。そして、それぞれの楽器における漆の用法をみることによって、楽器にこめられた物質文化としての価値や、楽器を生み育んだ文化の様相がみえてくるといっても過言ではない。漆には、音の文化が秘められているのである。

楽器における漆の用法は、単に塗布する場合や、貝や金銀を加えた蒔絵や螺鈿といった工芸の加飾技法を施す場合など、様々である。現代の日本では数少なくなってしまった琵琶製作者からうかがったことによると、楽器の保護・補強だけでなく音の向上のためにも漆を塗るということである。琵琶の場合、漆は楽器の外側にだけ塗布し、紫檀や桐といった素材が呼吸できるようにするため内側には塗布しない。丸めた布で漆を塗っては拭き取るという作業を1日1回、合計平均30回繰り返す。これを「拭き漆」あるいは「すりこみ漆」と呼んでいる。この場合注意すべきことは埃の付着であり、塗布する漆下地の研粉の割合が多すぎたり、下地の厚さが厚すぎたりすると良い音が得られない。さらに、漆の接着能力が大きいために接着状態のまま破損することもあるので、たとえ破損しても修正がきくような部分には膠を用いるといったような使い分けがなされたりもする。

このような楽器たちは、音を発する器具であるだけでなく、視覚上の美的感性にもうったえる優れた造形作品でもある。楽器と漆の関係に迫るためには、いくつもの時代を越えて現代にその姿を残す歴史的資料にみられる過去の漆の用法を、美術・工芸分野にまたがって把握するのとあわせて、現代の楽器製作の過程および製作者の意図を探る必要がある。

フィールドワーカーの行為

高岡結貴

ある異文化を理解しようとしたとき、対象は一つであっても、さまざまな解釈が生まれてくる。同じ対象でも、視点の違いにより全く異なった理解となるわけであるが、おそらくそのどちらも間違いではないのだろう。さまざまな視点からの解釈が行われ、それらすべてを眺めていると自然にその実体がくっきりと浮かび上がってくるようなものが文化なのではないかと思っている。多くの視点から、多くの研究を行い、試行錯誤することがその文化を正確に理解することにつながるに違いない。

我々フィールドワーカーにはそれが求められているのであり、フィールドワーカー自身もそれを求めて調査を続けている。しかし、それらすべての解釈は当該文化にさまざまな影響を与えることも忘れてはならない。ある文化の実体がどんなものであるかは、たとえ文化内の人でも正確に理解しているとは限らない。インタビューなどでは現われてこないような言外に含まれた要素もあれば、文化内の人間も意識していないような要素も多分に含んでいる。そのような状態の文化に対して、「ここの文化の実体はこういうものです。こう解釈します。」というようなコメントを行ってしまうてよいものであろうか。文化の持つ要素を整理し、思考回路を明快に解釈することは、その文化の持つ曖昧模糊とした部分をなくそうとする姿勢である。しかし、その曖昧模糊とした部分こそ、その文化の非常に大切な要素であることもある。その上、その要素は曖昧模糊としていなければこの文化の中でさまざまな支障をきたすかも知れない。フィールドワーカーの行為は文化を理解しようとするものであるにも関わらず、その文化を損なってしまう恐れを含んでいる。研究対象をもっと正確に理解したい。しかし大切にもしたい。この両面を確実に手に入れるような方法というものは存在しないものであろうか。

◆沖繩地区では第3回定例研究会を1991年6月22日(土)に開きました。

研究発表「大嘗祭の音楽—悠紀・主基風俗歌の宮廷献上と変容—」寺内直子(東京芸術大学)

研究発表「宮良長包の音楽」中村透(琉球大学)

内容の概略は「沖繩地区通信 No.3」(11月中旬刊行予定)に掲載されます。

◆沖繩地区定例研究会の開催予定は以下の通りです。

第4回定例研究会1991年11月30日(土) 会場:沖繩県立芸術大学

第5回定例研究会1992年2月22日(土) 会場:沖繩県立芸術大学

第6回定例研究会1992年6月下旬 会場:沖繩県立芸術大学

◆沖繩地区連絡会関係の問い合わせ先

〒903 那覇市首里当麻町1-4 沖繩県立芸術大学音楽学部 音楽学学科室内

東洋音楽学会沖繩地区連絡会 098-831-5034(金城)・5044(久万田)

当初9月上旬発刊予定だった第10号が諸事情により2カ月近くも遅れての発刊となってしまいました。この第10号でお知らせするはずであった第155回定例研究会のご案内は葉書で行い、結局第156回定例研究会のお知らせのみとなってしまいました。申し訳ございませんでした。今後、このようなことがないように留意いたしますので、お気づきの点がございましたら、どうぞ御遠慮なくお知らせください。

第156回定例研究会は日本音楽学会関西支部と合同で開催する予定です。その結果、研究発表2件と選考講座の合計3件のプログラムが組まれています。通例よりも長時間にわたり、興味深い定例研究会となるのではないかと期待いたしております。ふるってご参加ください。

支部だよりでは自由な投稿も歓迎いたしますので、ふるってご投稿ください。フィールドワークだよりはもちろんのこと、そのほかさまざまなアイデアを盛り込んでいきたいと思っております。送り先は研究発表申し込みと同じく、神戸大学教育学部岩井研究室です。

お忙しい中原精をお寄せくださった皆様、どうもありがとうございました。また連絡、通信などでご迷惑をおかけした方々もご協力ありがとうございました。

支部だよりの発刊予定は次の通りです。

第11号 1992年1月下旬発刊予定(2月定例研究会案内)原稿締切12月20日

支部関係の問い合わせ先

関西支部 〒559 大阪市住之江区南港中4-4-1 相愛大学音楽学合同研究室内

TEL06-612-5900 内線331

定例研究会・支部だより

〒657 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学教育学部岩井研究室

TEL078-881-1212内線7238